

損保は平和産業です！



憲法9条を守り抜きましょう！

「損害保険産業は平和産業である。」・・・私たちはこの旗を高く掲げ続けます。

冷戦が終わって地球上唯一の超大国となったアメリカは、これまで世界の多くの国々・人々が築いてきた平和の国際ルールを無視して勝手に戦争を起こしています。私たちは、「損害保険産業は、戦争で発展する産業ではなく、世界の平和や日本経済の健全な発展と国民生活の向上とともに地道に成長し、その発展と向上を支える産業」だと考えています。

第二次世界大戦が終わった後、損害保険産業の再建に携わった先輩たちは、「保険は平和産業」を合言葉にしていました。損害保険の科学性や商業ベースでの合理性を無視して国の政策である戦争の流れに組み込まれた時にどんなひどい結果をもたらされるのか、その恐怖を身にしみ感じてとったからでした。国策による「戦争保険」の引き受けて、収入保険料の何倍・何十倍もの保険金支払の責務を負いました。加えて支払のための資金は「国債」中心に運用するしかありませんでしたので、敗戦で、その「国債」が紙くずになってしまったのでした。また、戦争で国民や企業の資産が焼失したため、保険市場そのものが大幅に失われたのです。まさに「ゼロからの出発」でした。

長く損保協会専務理事を務められた靖善多氏は当時東京海上の戦争保険課の係長だったそうですが、終戦直前の状況を、「戦争保険の仕事は、空襲で焼け出された人々に対し書類上の処理で罹災証明書を持っている人に保険金を支払うというものでした。保険金請求の人は、数百メートルも並び、一方、会社の社員は徴兵等で少なく、まさにその受付業務は戦場のような騒ぎでした」と自らの著書で記されています。

私たちは、世界に誇ることのできる「平和の憲法」を持っている国民です。また、世界でただ一つ「原爆の被害」を受けた国民です。1945年8月6日、世界ではじめての原子爆弾が広島に投下され、人類の歴史上例を見ない悲惨な結果をもたらしました。広島平和公園には多くの慰霊碑が建っていますが、その一つに損保慰霊碑があります。原爆が投下された当時、広島では14の保険会社に200名の社員が働いていました。原爆で89名もの方が犠牲になりました。碑には『なぜ あの日は あった なぜ いまもつづく 忘れまい あのにくしみをこの誓いを』と刻まれています。この碑文は原爆投下の理由や原爆投下の犯罪性を鋭く指摘するとともに、わたしたちに平和な世の中を築くために平和への行動を過去から現在そして未来へと受け継ぐことの大切さを訴えています。

日本はみずから起こした侵略戦争の反省と教訓から憲法9条で「戦争放棄と戦力を保持しない」ことを明記し、国際社会に復帰しました。今日、憲法改悪の動きがかつてない規模と速さですすんでいます。自民党・民主党・公明党とも憲法改定の必要性を唱えています。最大の焦点は9条です。「自衛隊を自衛軍に変えて、海外での武力行使に参加できるようにする」ことが狙いです。もし彼らの思うように憲法の改悪がおこなわれれば、日本がアメリカにならって軍事大国国家に転じていくことは必至です。私たちの基本的人権にかかわる福祉・教育・医療関連予算もいっそう削られ、現在進められている重税・増税路線と重なり、私たちの生活に大きな影響を及ぼすことも明らかです。

私たちが見過ごすことができないのは、戦後初めて、財界が憲法改悪の旗をふり始めたことです。利潤追求のためなら憲法を変え、軍隊を送り、他国民を殺すことも辞さない。こんな財界にNO!の声をつきつけましょう。きたるべき参議院選挙で、「日本を戦争する国にはさせない」私たちの決意を示しましょう。

「一人は万人のために、万人は一人のために」。この精神で明らかかなように損保産業は平和であってこそ成り立つ産業です。憲法9条は損保産業が世界の平和に役立つ産業として、平和を支える産業として発展していく上で積極的な役割を担っています。

損保慰霊碑の碑文の精神を心に刻み、「日本と世界の平和実現、核兵器廃絶、憲法改悪反対、国民生活向上、子どもたちの未来展望、損保産業が平和とともに歩む産業として発展する」ために奮闘しましょう。